

熊県大第28号  
令和5年4月27日

熊本県知事 蒲島郁夫 様

公立大学法人熊本県立大学  
理事長 白石 隆

公立大学法人熊本県立大学第4期中期目標（素案）に関する意見について  
令和5年4月17日付け県情文第18号で依頼があったこのことについて、別添のと  
おり提出します。

公立大学法人熊本県立大学 第4期中期目標（素案）に対する意見

項	行	素案	意見	理由
重点 目標	1	(2) <u>熊本地震及び令和2年7月豪雨からの復興支援を含めた地域に貢献する教育研究の推進</u>	「令和2年7月豪雨等自然災害からの復興支援を含めた <u>地域社会の発展に貢献する教育研究の推進</u> 」としてはいかがか。	熊本地震からの復興支援は特にハード面はピークを過ぎた感があるため。また、前文にある「 <u>地域社会の発展</u> 」と合わせるため。
I-1- (1) ①	30	<u>入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、大学入学者選抜改革を踏まえた多様な選抜方法を活用して、大学が求める学生を確保する。</u>	「 <u>大学入学者選抜改革の趣旨を踏まえつつ、入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な選抜方法を活用して、大学が求める学生を確保する。</u> 」としてはいかがか。	大学入学者選抜改革自体は AP では直接触れていないので、「AP に基づき」にはつなげにくいため、語順を入れ替える。
I-1- (1) ②	34	大学院では、 <u>高度な専門的知識及び研究能力の修得を目指す意欲あふれる人材について、積極的かつ効果的な広報活動により、学部卒業生や社会人など多様な分野からの受入れを推進する。</u>	「 <u>積極的かつ効果的な広報活動により、内部進学者に加えて、社会人など高度な専門的知識及び研究能力の修得を目指す意欲あふれる多様な人材の受入れを推進する。</u> 」としてはいかがか。	「学部卒業生」は「内部進学者」とするのが一般的であることと卒業生や社会人を「分野」とは呼ばないため。
I-1- (2) ①	39	①熊本地震及び令和2年7月豪雨からの創造的復興及び防災・減災に関する教育を推進するとともに、県内全域にわたって地域課題の解決に取り組む実践的・総合的な教育の更なる充実を図る。	「 <u>令和2年7月豪雨等自然災害からの創造的復興</u> 」としてはいかがか。	熊本地震からの復興支援は特にハード面はピークを過ぎた感があるため。

項	行	素案	意見	理由
I-1-(2) ②	3	②グローバル化する社会に対応するため、より実践的な学びを通して英語をはじめとした外国語能力の向上を図るとともに、 <u>国際的な視野と認識を高める教育及び異文化理解の促進に向けた教育を充実する。</u>	「②グローバル化する社会に対応するため、より実践的な学びを通して英語をはじめとした外国語能力の向上を図る。 <u>また、異文化理解及び多文化共生の促進に向けた教育を充実する。</u> 」としてはいかがか。	・国際的な視野を高める教育と異文化理解を促進する教育は、ほぼイコールであるため。 ・総務省でも「国籍などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく、『地域における多文化共生』を地域の国際化の第3の柱として推進」しており、TSMC 進出により多文化共生の促進も重要と思われるため。
I-1-(2) ③	5	③学生の学修意欲や教育効果の向上につながるよう、教育課程や教育方法等の検証・改善を行い、教育内容・方法等の質的向上を図る。特に、 <u>学生の学修時間の把握や大学での学修成果の可視化等に取り組み、学生の視点に立った教育の実現を図る。</u>	「特に、 <u>大学での可視化された学習成果等に基づき、学生の視点に立った教育の実現を図る。</u> 」としてはいかがか。	「学生の学修時間の把握」は、目標としては具体的すぎると思われるため。
I-1-(2) ④	9	④教育の質の維持向上のため、 <u>大学の特性・専門性に応じた優秀な教員を確保する。その中で、社会の要請に合わせた教育を幅広く展開させることができるよう、多様なバックグラウンドを持つ人材の活用を図る。</u> また、教員一人ひとりがより高い水準の教育を行うことができるよう能力向上を図る。	「大学の特性・専門性に応じた優秀な教員を確保する。その中で、社会の要請に合わせた教育を幅広く展開させることができるよう、多様なバックグラウンドを持つ人材の活用を図る。」は削除し、「教育の質の維持向上のため、教員一人ひとりがより高い水準の教育を行うことができるよう能力向上を図る。」としてはいかがか。	理事長・学長からの意見にあったとおり、優秀な教員の確保は当然のことで、多様なバックグラウンドを持つ人材については、採用に係る審査の結果であって、目標として掲げるものではないと考えるため。また、第3期中に記載してきた教員採用の実績については、「⑤教育の実施体制の整備」の実績に含むことができると思われるため。

項	行	素案	意見	理由
I-1-1-(3)	17	(3) 学生支援に関する目標	「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の「教育に関する目標」に「学生支援に関する目標」が含まれているが、第4期においては「学生支援に関する目標」として、別立てとしてはいかがか。	修学支援法に基づく授業料減免・奨学金制度について、第3期途中の2020年度から開始され、2024年度から制度を変更される予定であり「学生支援」部分に動きがあること、また、(公財)大学基準協会の認証評価でも教育と学生支援は別立てとなっているため。
I-2-(1)	29	(1) 研究の方向に関する目標 大学の特色ある教育や地域社会の発展のため、熊本県立大学として独自性のある研究及び地域課題の解決に役立つ研究活動を推進することとし、国内外で高く評価される研究水準を目指す。 また、熊本地震及び令和2年7月豪雨からの創造的復興及び防災・減災に関する研究を推進する。	「また、令和2年7月豪雨等自然災害からの創造的復興及び防災・減災に関する研究」としてはいかがか。	熊本地震からの復興支援は特にハード面はピークを過ぎた感があるため。
I-3-(1)	1	(1) 県、市町村、企業その他の団体との連携を深め、それらの団体を支援するシンクタンク機能を充実・強化する。 <u>特に、産学官金連携によるDX推進の取組や、起業・事業承継支援の充実を図る。</u>	・「県、市町村、企業その他の団体との連携を深め、 <u>DX推進の取組等</u> 、それらの団体を支援するシンクタンク機能を充実・強化する。」とし、「特に、～」以下は削除してはいかがか。 ・起業・事業承継支援については、「教育」の①地域課題の解決に取り組む教育に含むか、「地域貢献」に別立て（起業・事業承継支援につながる教育の実施、等）はいかがか。	・「産官学金連携」は、前の「県、市町村その他の団体との連携を深め」とほぼ同義であるため、「特に」として記載する意義が分かりにくいと思われるため。 ・起業・事業承継支援については、授業等で取り上げるなど教育の一環として行うことを考えているため。

項	行	素案	意見	理由
I-4-(2)	16	(2) 外国人留学生の受入れを促進するために、積極的かつ効果的な情報発信や受入体制の充実を行うとともに、 <u>グローバル化に対応した教育研究環境の整備を推進する。</u>	「とともに、グローバル化に対応した教育研究環境の整備を推進する」の部分は削除してはいかがか。	外国人留学生数を増やすためには、奨学金及び学生寮を有する（あるいは、大学による民間住宅の借上げ、住居に係る支援金等）ことが重要で、これに係る新たな予算措置を期待、誤解を生じることを懸念するため。
II-2	28	社会の要請に積極的に対応するため、学部学科、附属機関等の教育研究組織のあり方について不断に検討し、必要に応じ適切に見直す。	教育研究の実施体制に関する目標について、「II 業務運営の改善・効率化に関する目標」からは「2 教育研究組織の見直しに関する目標」を削除してはいかがか。	学部学科等、教育研究組織の見直しは教育の質の向上のために行うものであるため、業務運営よりも「I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の方がふさわしいと思われる。また、第3期中に「2 教育研究組織の見直しに関する目標」の実績として記載してきたセンター等の改組については、「1 大学運営の改善に関する目標」に含むことができると思われるため。
IV	10	自己点検・評価を定期的実施するとともに、第三者機関の評価を受け、これらの評価結果を教育研究や組織運営の改善に活用するという組織的なマネジメントサイクルを <u>充実させる。</u>	「組織的なマネジメントサイクルを <u>着実に運用する</u> 」としてはいかがか。	第3サイクルの認証評価では内部質保証が重視され、「組織的なマネジメントサイクルを充実させる」ことが必要とされたため、実際に第3期中期計画で充実させるためのシステムを構築し、定着させたため。